

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 橋本市立三石小学校

教諭 川西 真由

1. 単元名

いろいろな道具の移り変わりを見つけよう

2. 単元の目標

- ・様々な道具の移り変わりや使い方を意欲的に調べ、過去の生活からの変化を捉えられるようにする。
(知・技)
- ・道具の移り変わりと生活の変化の関連を調べ、それらをわかりやすくまとめられるようにする。
(思・判・表)
- ・道具や生活の移り変わりに関心をもち、調べることを通して、より良く生きるための方法を考えられるようにする。(主学)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、第3学年で初めて扱う歴史的な内容である。したがって、子どもたちが事実を的確につかみ、調べることができるように、見学や聞き取り調査、体験活動など具体的な学習展開を取り入れる。七輪を使うという体験学習では、その当時の人々の生活の様子に触れたり、道具にこめられた先人の知恵や工夫を発見したりすることができる。現在の自分たちのくらしと比較することで、違いや苦勞、その当時の人々の努力や工夫などを考えることができる。

(2) 児童観

本学級の子どもたちは、1年生のときに生活科の「むかしからのあそびにちょうせん」で、地域のお年寄りの方に来ていただき、こままわし、けん玉、はごいた、お手玉等の昔遊びを教えていただいた。昔の物に対する興味は、とてもあると思われる。しかし、児童の祖父母が50代や60代と若くなってきているので、社会の教科書に載っているような昔の道具を使っていなかったと思われるので、実際に身近な人から昔のくらしの様子を聞くことが難しい子どもが多い。

そこで、郷土資料館の見学や、当時のくらしを知る人に直接話を聞くなどの体験的な学習を多く取り入れながら、当時のくらしや今の便利さについて人々の思いに触れ、実感をもてるような単元構成にしたい。

(3) 指導観

学習を進めるにあたり、道具そのものの変遷を学習するだけでなく、それに伴って変化してきた地域の人々の生活と今の自分の生活を比べることによって、人々のくらしが変わってきた背景や関連するできごとについても理解を深められるよう、郷土資料館の見学や地域の人との触れ合い学習を計画・実施する。

また、昔の道具を過去の物として見るだけでなく、その時代の人々の願いや思い、現代の道具へと受け継がれていることが理解できるよう、指導していく。

(4) ESDとの関連

- ・学習を通して主に養いたいESDの視点

【連携性】多様な人と関わることの楽しさ、発表に向けてグループで協力し合うことで身に付ける。

【責任性】昔の人のくらしの様子と自分たちのくらしの様子をくらべ、これからのよりよい生き方を考える。

・学習を通して主に育てたいE S Dの資質・能力

システムズシンキング（多面的・総合的思考力）

さまざまな疑似体験をすることによって、多面的に物事を考える力を身に付ける。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
様々な道具の移り変わりや使い方から、過去の生活からの変化を捉えることができる。	道具の移り変わりと生活の変化についての関連を調べ、まとめることができる。	道具や生活の移り変わりに関心をもち、よりよく生活するために具体的に行動することができる。

5. 単元展開の概要

	主な活動	学習への支援	◇評価・備考
1	昔と今の道具の違いを知ろう。 郷土資料館に見学に行く。	社会科の延長として、50～100年前の道具を意識させる。	◇関心をもって移り変わりを考えることができる。 (主)
2			
3			
4	地域の人と七輪で餅焼き体験。 地域の人に昔のくらしについて話を聞く。	昔のくらしのよかったところなどを聞かせてもらえるようにする。	◇関心をもって昔の道具や生活について捉えることができる。(主)
5			
6	自分達で道具を決めて、移り変わりを調べよう。	インターネットや書物を使って調べられるようにさせる。	◇自分達で決めたものの変化を見つけることができる。 (知・技)
7			
8			
9	調べたことをグループにわかれて発表できるようにまとめよう。	壁新聞形式にし、様々な年代の児童が見やすいように工夫させる。(授業参観後、校内に掲示する。)	◇道具の移り変わりや生活の変化を、わかりやすくまとめることができる。 (思・判・表)
10			
11			
12	おうちの人に発表しよう。	授業参観で、自分たちの調べたことを発表させる。	◇自分たちの考えや思いを他者に伝えることができる。 (思・判・表)